



動物園の再整備にあたって



過去から将来に受け継ぐ大切なもの ～ 100年も前からあった動物園の構想 ～



再整備担当 伊藤 博之

今年、秋田に動物園ができてから60年目の年を迎えます。昭和25年に「秋田県児童会館付属動物園」として発足したのは、市中心部の千秋公園(久保田城跡)内でした。その後、昭和28年4月には県から市に移管され、「秋田市児童動物園」と名称が変更されました。それでは、千秋公園に動物園を創ろうとしたのは、いったいいつ、誰が考えたのでしょうか？

千秋公園は、長崎県大村市出身の長岡安平氏によることは広く知られています。十年ぐらい前になりますが、秋田県公文書館に長岡氏が手がけた際の図面が数枚保存されていることを、久保田城跡歴史案内ボランティアの会の方が発見しました。明治44年と記された図面に動物園と思われる表記があり、驚いたことを憶えています。

今年度、大森山公園の豊かな自然と調和し、一体となった魅力ある施設づくりに向け、有識者や市民の代表とともに意見を交わしながら、動物園の将来構想づくりを行いました。先月、ホームページ上でその資料を公表し、市民から意見を募集したところなので、ご覧いただいた方もいると思います。

将来構想づくりは、コンセプトと整備方針といった大きなフレームづくりが主な作業でしたが、千秋公園に考えられた当時の“それ”は何だったのでしょうか？

“児童動物園”という言葉が“それ”であり、昭和48年に自然豊かな大森山の地に計画

された“子どもの国(現大森山公園)”も“それ”を引き継いでいたものと思います。

現動物園の将来構想“大森山自然動物公園(仮称)”のコンセプトは、「自然と調和し、市民と共に成長し続ける公園づくり」であり、「自然」「観光」「教育」「環境」「協働」の5つを整備のキーワードにしています

本市を一望できる大森山の豊かな自然と動物、そして市民をはじめ多くの人々の力で公園づくりをしようとするもので、これもまた“次世代を担う子どもたちのため”のものであることに変わりありません。

大森山動物園では、引き続き大森山自然動物公園(仮称)の実現に向け、具体的な活動と計画づくりを進めます。



平成21年 ミルヴェ あれこれ 紹介

平成21年も大森山動物園では色々な出来事がありました。中でも、特別なニュースや初めて開催したイベントなどを、簡単にご紹介します。

4/18 ●大型遊具「アソヴェの森」がオープン
オープン以来、お子様に大人気のアソヴェの森。すでに当園の人気施設になっています。

5/28・29 ●日本動物園水族館協会総会を秋田で開催
当園は総会をホスト。総会にご臨席された協会総裁の秋篠宮殿下が当園をご視察されました。

7/24～26 ●写生大会を3日間開催
21年で32回目を迎えた写生大会。初めて複数日に渡って開催しました。天気や都合をみながら参加することができたと好評で817名の方が参加しました。

7/29 ●再整備策定委員会立ち上げ(P8参照)
大森山動物園を再整備し、より魅力的にするために委員会を立ち上げました。今後時間をかけ、市民の皆さんの意見を聞きながら、再整備を進めていきます。

10/17 ●特別イベント
「大森山動物園のヒツジの毛を使ってタペストリーを作ろう!」を開催(右記参照)

11/22 ●「いい夫婦の日」イベントを開催(右記参照)

11/29 ●通常開園期間の入園者数が30万人突破
1991年以来、18年ぶりの30万人突破となりました。たくさんのご来園ありがとうございました!

Pick Up 特別イベント 「大森山動物園のヒツジの毛を使ってタペストリーを作ろう!」

10月17日に、染織家の三浦眞理子先生を講師に迎えて開催しました。大森山動物園で飼育している羊の毛を有効利用。小学生から大人まで9名の方が参加しました。

フェルトの圧縮機能を使い、参加者全員で、好きな動物の絵柄などを作って、大きなタペストリーに仕上げました。自由な発想の、とても楽しい作品ができあがりました。このタペストリーは、園内のミルヴェ館に掲示しています。



作成中の様子



完成したタペストリー。幅は1メートルもあります

Pick Up 「いい夫婦の日」イベント

11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ、たまにはご夫婦だけで動物園をお楽しみいただき、お二人で大人の時間を過ごしていただく、初めて開催したイベントです。動物園のスペシャルガイドツアー、スペシャルランチ(弁当)とワインのセット、動物との記念写真、園内にある遊園地アニパの観覧車利用券がセットになっており、22組のご夫婦が参加。いつもと違う、ご夫婦だけの特別な動物園に、皆さん楽しそうでした。



ガイドツアーの様子

動物病院から

獣医師 高橋 拓

Topic ウィッキーはじめてのレントゲン体験



重い…

麻酔後トラ舎から病院へ運ぶ

2009年11月30日夕方、アムールトラのウィッキーが、展示場で左の足を引きずっているとの無線が入りました。現場に到着すると、確かに左足を膝から上には上げようしない様子が見られました。「もしかしたら脱臼しているのではないか?」と疑われたため、レントゲンを撮ることを決断しました。レントゲンを撮るといっても、みんなで押さえて撮るわけにもいきません。吹き矢で麻酔をかけ、完全に眠らせてから、病院のレントゲン室へ移動して撮ることにしました。

移動させるにも大変で、職員8人がかりです。体重はなんと163kg。病院に着くと今度は別の難題が。レントゲンの撮影台に乗せるには大きすぎ、かつ重すぎなのです。そのため下半身だけ乗せて撮



レントゲン室で撮影準備

影することになりました。結果は、脱臼は認められず、炎症による腫れや骨折もありませんでした。周りにいる全員一安心です。その日は鎮痛剤を打って寝室へ戻しました。その後、毎日薬を飲ませ、12月11日には正常な歩行に戻ることができました。

猛獣と呼ばれる動物は、麻酔無しでは治療できないことがあります。安全な麻酔管理で治療することが第一となり、細心の注意が必要です。しかし、麻酔をかけた時はいつもは触れられない、見ることができないところまで見ることが出来ます。おかげで、いつも新しい発見をさせてもらっています。

アムールトラの毛は意外と柔らかいですよ。



レントゲン画像を確認中